

# INSIDE-OUT

木更津市立木更津第二中学校  
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地  
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233



木二中 学校だより No.17 令和5年9月4日  
校長 山元 竜二

E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp  
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>

## 3年生へ 私立高校前期入試「推薦」の意味を考える

先週1日(金)、来る高校入試に備えて、3年生は復習確認テストが実施されました。今後、進路学習会や複数回の三者面談等が予定されており、いよいよ進路に向けて様々な準備が進められていくこととなります。

まずは1月、私立高校入試から始まり、最終的には3月の公立高校入学者選抜で進路が最終決定するわけですが、単願・併願に関係なく、私立前期入試を受験するには、在籍中学校長の推薦が必要となります。

高校入試における「学校長推薦」とは、学業成績や人物像について、「優れている」、「適している」と高く評価した個人(=生徒)を裁量権(可否を決定する権利)を有する相手(受験校校長)に知らせて採用(=合格)を促すことを言います。つまり、人物・学力ともに優秀で、推薦するに値するということが条件となります。

そこで、3年生のみんなには真新しい制服に身を包み、夢や希望に満ちて入学した3年前を思い出してみてほしい。それからスタートした自身の中学校生活を振り返ってみてほしい。

「自分は推薦に値する学力があるかどうか?」、「自分は推薦に値する人物かどうか?」、「何事にも積極的に取り組んできたかどうか?」

当時はよくわからなかったけど、そう言えば担任、教科、部活動の先生方によく次のように言われたことはありませんか?

「提出物を期限内にしっかり提出できるようになりなさい。」、「誰もやろうとしないことを誰よりも積極的にトライしてみなさい。」、「周りを見て、仲間のために自分にできることは何か考えなさい。」

生活のほとんどを保護者や先生方に助けられていた小学校とは違って、自らの考えで自らの行動を決め、実行にうつしていく。時に失敗することがあってもその都度、たくさんの大人たちに叱咤激励(しったげきれい=大きな声で励ますこと)されながら今日のこの日まで歩んできたはずです。

進路決定に向けていろいろ動き始めた今、3年生だけでなく在籍するすべての生徒たちに考えてほしいことはただ一つ。「推薦されるかどうか?」よりも、自分が歩んできた3年間の中学校生活を活かして、どんな高校生活を送るのか。それだけです。

「生徒指導が多かったから推薦されない。」とか、「服装・頭髪で注意を受けることが多かったから推薦されない。」とか、逆に「何も問題を起こしていないから間違いなく推薦されるはずだ。」ではない。そんな小さなことを校長先生が望んでいるわけではないのです。3年間、何も問題を起こしていないことが推薦に値する人物となり得るのか。そんな自分を誇りに思えますか?

いろいろとあったかもしれないけど、注意・指導を受けたその後の生活がどうだったのか。何も問題はなかったかもしれないけど、誰もが認める功績もないことが推薦なのか。

これまでにいろいろあった生徒については、過去の自分の失敗を改め、時に後を振り返り(反省)ながら、前をしっかりと見据えて生活してほしい。言われてみれば、可もなく不可もなく何となく3年間を過ごしてきた生徒については、「高校入試」、「中学卒業」を機会に自分の中に潜在する可能性を自らの力で見出し、いろいろなことに挑戦してみようという覚悟を持ってほしい。

中学校における学校長推薦とは、その生徒が持つ大いなる可能性を約束するもの。「推薦」ではなくて、15歳の若者が持つ無限の可能性の「証明」、「約束」、そして次なるステージへ向けての「期待」です。校長先生の印鑑には、君たちに関わったすべての先生方のそんな思いが込められているものであると私は考えています。

そんな先生方の思いに応えるのは、「今」であり、君たちの目の前に広がる無限の「未来」ではないだろうか。

進路決定までおよそ半年。直向きに頑張る君たちの背中を1・2年生たちに見せてほしい。残り半年しかないけれど、君たちの入試に向かう姿勢でこの学校を新たなステージへ導いてほしい。